

# まごころ便り Vol.8



発行人／株式会社ケアプラス  
 本社／〒105-0014  
 東京都港区芝3-40-4  
 三田シティプラザ2階  
 TEL／☎ 0120-8556-39  
 HP／http://www.care-plus.co.jp

「動くと怖い」が「動かせる喜び」に。  
 地道な練習に寄り添って。

## 可能性の発見を繰り返し。

脳出血の後遺症で左麻痺側が思う様に動かないというS様でしたが、それは身体の問題に加えて、怖さや不安が付きまとうことも克服する必要がありました。そこで施術の効果を引き出すために、「ご自身では出来ないと思っていられない、ご自身では出来ないと思っていられない」と見られた動作をやってみて頂く、という事を繰り返しました。その結果、「やってみたら出来た」という実感から施術師との信頼関係が生まれ、より高い難易度にもトライ出来る気持ちを作り出しました。麻痺手で物を掴んで動かすことなどもクリアし、ジッパーのついた服を着る事も可能に。S様も「まずは三分の一でも良いから元の姿に近づけるようになりたい！」と前向きな言葉を口にされるようになりました。

より安定した歩行や感覚の改善などを目指して、さらにチャレンジを重ねています。



埼玉営業所／榎村相談員

## より良い明日への期待は、信頼と観察から生まれる。

今回のケースは、脳出血で倒れ左側に片麻痺が残った方が、施術の前は社交ダンスを通して左手で靴を持てる程に改善した事例です。倒れる前は社交ダンスをされていたS様にとって、初めての訓練には怖さがあったとの事ですが、施術師がしっかりとそのお気持ちに寄り添い、状況を観察しながら多彩な施術メニューを組み合わせることで克服することが出来ました。恐怖心が喜びや将来への期待へと変化する経緯に焦点をあてました。



初療3ヶ月

初療から3か月ほどで立膝の保持や腕の突き上げができるようになりました。



初療8ヶ月

歩行練習の恐怖心もほぼなくなり、歩き方も改善されています。

〈初期目標〉  
 麻痺側に体重をかけられるようにする

〈中長期目標〉  
 上下肢の動作の向上  
 歩行の安定

## 【治療内容】

S様の場合、非常に沢山のメニューを少しずつ実施しているのが特徴です。肩・膝・足関節それぞれのリラクゼーション、体幹のひねり運動、麻痺側への荷重、バランス練習などから始まり、その後はあおむけでのストレッチや立位で杖を持ち狙ったところに足をおろす練習など、実に多彩な施術メニューです。麻痺側の筋肉の疲労に配慮し1つの運動の回数を少なく、その分いろいろな機能を引き出すことを狙った構成になっています。

ご利用者情報 S様(63歳・女性)  
 傷病名：脳出血・左片麻痺  
 高次脳機能障害・高血圧症

脳出血で緊急入院され、一命はとりとめられたものの片麻痺や高次脳機能障害がありました。左手でものをつかんだり



牧野 施術師  
 をかけたりと  
 いうことが出  
 来ない状態  
 でした。

## ご利用者からのニーズ

マンツーマンの指導で、左側を動かせるように。  
 当初からデイケアのリハビリに加え、マンツーマンでのマンサージ施術を通して日常生活で左手が使えるようになったり、左側の機能を回復させたいとの要望がありました。  
 また、歩行時に足がひっかかり、後方に倒れそうになるとのこと、歩行の不安定さを改善したいとのニーズがありました。

恐怖心は減り、できる喜びに変わりました！

「初めて取り組む施術は、最初は怖い、難しい、出来ないと思ったけれど、毎回続けていくと難しかった事が不思議と簡単に感じるのよ」S様はそう話されます。恐怖心が減った為、出来る事も増えたとのこと。ケアマネジャーも「麻痺側の動きの改善が目覚ましい」と喜ばれています。これからもご本人のちょっとした変化などを観察し、



■次の目標へ、手を取り合って進みます！

出来ることも  
 がもっと増  
 えるよう着  
 実に取り組  
 んでまいり  
 ます。